

## 優れた人材

2021.3.8

幕末の1834年に生まれ、26歳にして安政の大獄により幕府に処刑された人物に、橋本左内がいる。まるで花火のような激しくもはかない人生と言えようか。しかし、彼が影響を与えた人物には、数年ばかり年上で、ほぼ同時期に処刑された吉田松陰のほか、西郷隆盛など幕末の英雄がずらりと並ぶ。

その橋本左内の代表作が『啓発録』である。16歳のときに自らの大志を忘れぬように残し、それを若い武士たちに向けて発信した書物である。その中に優れた人材を得るための四つの条件が述べられている。四つの条件とは、どのようなものなのか。以下に紹介する。

第一に、人材をよく知ることです。すなわち、その相手の長所をよく知り、欠点をその場で見破ることに努めなければなりません。

第二に、人材を養うことです。人材の特徴を見抜いたならば、まず長所をより伸ばすような教育をしていきます。そのうえで、教育にとって害になるものや困難な問題を取り除いてあげます。その環境を整えたうえで、その者が抱えている反抗心や迷いなど、心の問題を取り除いてあげるための術を凝らすのです。そうすれば、やがて彼らは「志」と呼べるものを見つけていくでしょう。

第三に、人材を完成させることです。養うことができたなら、今度は彼らに武芸を教え、学問を植え付け、正道を歩むように導いていきます。実際に現場での実力を試し、そのうえで、さらに技術を熟練させ、即戦力として使える人材にまで、私たちが人材を支え、完成させてあげるのです。

第四に、人材を活用することです。育てた人材はすでに即戦力になるのですから、その者が長く用いられず、くさってしまうようなことがないように、ただちに相応しい部署に推薦して、しかるべき任務を任せなければなりません。

この四つの条件をきちんと実行しなければ、優れた人材はなかなか確保できないようである。教育によって人材を育成するということは、重要なテーマであり、それだけに非常に難しい問題でもある。

人材をよく知り、養い、完成させ、活用する、優れた教えというものは時代を超越する。『啓発録』はたった数十ページの短い書物である。中身は、今の時代にも十分通用する。昔のものにこそ、現代人が忘れてしまっている大切なもの、現代人に必要なものがある。教育に携わる者は、四つの条件のプロセスを普段から意識していなければならない。

中でも、第一の人材をよく知るだが、生徒のことも、先生方のことも、自分はどれほど長所を知っているのか、知ろうとしているのかと思うことがある。見る角度を変えたり、思い込みを排除したりしながら相手のことを理解していく、まずはそこからである。